

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>(イ) アンゴラ共和国・ベンゴ州における地雷被害の局限と地域復興に寄与 住宅建設予定地約30haを除去するとともに子供を主体に危険回避啓蒙教育を実施し、死傷者ゼロに貢献した。また、除去地周辺道路の新設及び整備、給水施設の維持整備及び土竈の設置等により地域復興に寄与した。</p> <p>(ロ) 機械による地雷処理技術等を移転し、自立処理能力を向上 現地スタッフ12名に対し、各々の職務に応じキャパシティビルディングを実施し、レベルの向上を図った。</p>
(2) 事業内容	<p>(イ) 地雷処理 CNIDAH及び州行政府と緊密に調整し、機械を使用した地雷処理作業を実施し、約30haを安全化した。</p> <p>(ロ) 地元隊員に対する技術等の移転 現地地雷処理機関(INAD)の隊員に対しOJTを通じて、 ①地雷除去に関する技術(地雷除去機の操作、整備)教育と同時に、 ②マネージメント(事業運営管理・経費管理・安全管理等)に関するキャパシティビルディングを行った。</p> <p>(ハ) マブバス村の地域復興支援 地雷処理活動を行う地域の居住地において、①道路整備、②給水設備整備、③危険回避啓蒙教育及び④土かまど作り支援を行うとともに農業心育成及び地域清掃支援等を行い住民に対し地域復興について啓発、啓蒙を図った。</p>
(3) 達成された効果	<p>(イ) 地雷処理 約30haのベンゴ州政府計画の住宅建設予定地を除去・安全化した。所期の目標40haを下廻ったのは、除去機のオーバーホールのため11月中旬～12月一杯除去活動が不能となったこと等整備所要が予想を越えたことが主因である。 別表「地雷処理実績等表」参照</p> <p>(ロ) 技術移転 ① INAD 隊員のリーダー要員1名、オペレーター要員3名、整備要員2名、交代・補佐要員3名、救護要員1名、企画スタッフ1名、会計スタッフ1名の合計12名に対してそれぞれの個人的特性・適性に応じて個人ごとの評価表を作成してOJTにより指導し、約半数の者が次のレベルに到達した。 ・地雷除去機の操作・整備「監督・指導が概ね実施出来るレベル」 ・マネージメント(事業運営管理・経費管理等)「自ら地雷除去計画等を立案・運営出来るレベル」 別冊第1「技術移転評価表」参照</p> <p>② 除去機を扱う操作及び整備要員に対し機材の修理に必須の溶接技術の関する機会教育を実施して同技術を習得させ、機械処理能力等の向上を図った。</p>

別冊第2「溶接技術個人評価表」

(ハ) 地域復興支援

- ・ 5000L 水タンクによる給水場を管理し、近傍住民約500人に常統的に水を供給した。
- ・ 新除去地へ人員・器機材等の通行及び運搬を可能にするよう地区を横断する道路を新設・拡幅するとともにマーケット地区の整備を実施した。新設・整備したベース沿いの道路の24. 6. 7 (木) ~ 12 (火) の6日間道路通行量は次の通り。

日	7	8	9	10	11	12	合計	平均
トラック	29	47			1	4	81	14
普通車	52	54	23	54	73	47	303	51
バイク	27	34	9	34	42	24	170	29
人	11	35	2	14	10	10	82	14

- ・ 6月16日「アフリカ子供の日」に、マブバス郡及び学校と協力して新入生を中心とする児童約150人を対象に、映像及び実物を以てり教育を実施するとともに各四半期に学校計画の校外教育（於現場及びベース）の支援及びマブバス地区代表者会議における教示等により地雷被害の局限を図った。

なお、本事業間の地雷・不発弾による住民の死傷者は皆無であり、地雷・不発弾等発見した場合、住民が自発的に弊会に通報するようになってきている。

- ・ 土ブロックによる土かまど作り実習を巡回により10地区において実施し、土かまどの普及を図った。
- ・ 農業心育成のため、マブバス地区の主要箇所に、子供等と花壇を作成し植物を育てる心を醸成した。これにより土壁等に草花を飾る家々が見受けられるようになった。
- ・ 引き続き毎週土曜日（本事業間45回）に、子供達とともにマブバス地区内の清掃活動を実施した結果、自発的に病院等の公共施設の清掃を行う人々が現出してきている。

(4) 持続発展性

(イ) 処理地の有効活用

地雷処理後の地域は地域住民のために有効活用が図られるべくベング州と調整する。また事業地のマブバス郡及び他の NGO に対して地雷処理後の地域開発、自立、生活改善等の支援を促す考えである。

(ロ) 処理要員の確保

本事業では12名の隊員に対して技術移転を企画しており、計画中のじ後の事業において養成する隊員と相俟って幣会撤退後も、アンゴラ処理機関による自立発展性が確保される。

(ハ) 給水場の管理

本事業地区在住者に管理させており、郡事務所に支援を促す事と相俟って弊会撤退後も維持される。

(ニ) 道路維持

本事業では、毎月週末1回を基準に住民参加による砂利・砂等による地域内の道路補修を企画して、弊会撤退後も地域住民により道路状態を維持出来るよう補修要領の習得を図っている。

(木) 危険回避啓蒙教育

学校計画による生徒に対する教育を支援する他、先生に対する教育（下半期及び上半期の2回）及び各四半期に実施されるマブバス郡の各地区代表者（JMAS代表者も含む）等20数名参加の郡代表者会議において、地雷被害局限策等を教示することにより自立発展性が確保される。